

新たな事業モデルを模索する時代に

ドラッグストア

昨年6月に施行された改正薬事法により、医薬品小売業、中でもドラッグストアは大きく変化を見せることとなった。とはいえ、それは改正薬事法を遵守しただけの変化にすぎない。セルフメディケーションの受け皿という社会的役割が指摘される中で、今後ドラッグストアがさらなる進化を遂げるには、どういった方向性が求められるのか。少子高齢化が進展していく中、大手ドラッグストアは、将来を見据え「地域医療の中での存在感」を重視した取り組みに力を入れている。

2009年度のドラッグストアの市場規模は、前年度に比べ4%増の約5兆4400億円とされ、健康志向の高まりも背景に、小売業の中でお成長を続けている。中堅企業の買収や合併による、グループ規模の拡大も近年は目立っており、昨年10月1日にはココカラファインホールディングス（セイジョー、セガミメディクスを傘下）が、アライドハーツ・ホールディングス（ジップドラッグ、ライフオートを傘下）と合併し、商号を「ココカラファイン」に変更し、1000店舗を超える国内トップクラスの規模・業績を持つドラッグストアチェーンになった。

かつてのドラッグストアは、医薬品や化粧品、日用雑貨を安く売ることが成長の軸とな

っていた。しかし、ドラッグストア業界は今後、新販売制度による異業種の参入が一層進み、業界再編の流れの中で競争は激化、収益確保が容易ではなくなっていくとの見方が強い。企業規模の拡大が重要なのはもちろんだが、他社との差異化戦略は生き残りに欠かせない。

業界団体の日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）では、ドラッグストア市場拡大に求められるテーマとして、①面分業の推進②セルフメディケーションの推進③人材の育成④事業の効率化を図るインフラ整備⑤需要創造及びマーケット拡大の研究と実践⑥店舗の効果・効率向上の研究と実践⑦狭小圏型新フォーマット開発の研究と実践——を挙げている。



品揃えや価格以上に、専門性を伴ったキメ細かなサービスが求められている

年中無休で行い、終末期における看取りにも付き添う。現在は中部・近畿・関東などの出店エリアのほぼ全てで、“在宅医療”実施店舗や訪問看護ステーションなど地域医療に関わる拠点づくりが進んでいる。

一方、地域社会に貢献する“かかりつけ薬局”を目指し、調剤併設型ドラッグストアを広域で展開するのが、グループ企業4社（ウエルシア関東、高田薬局、寺島薬局、イレブン）を擁するグローウェルホールディングス。「ドラッグ&調剤・カウンセリング・深夜営業」というビジネスモデルを柱として、関東甲信越・東北・東海・関西圏において660店舗（10年8月期）を出店している。

同社では、調剤機能の併設、薬剤師の質の向上は「次世代ドラッグストアに必須であり、最大の差別化要因になる」と認識。グループの調剤併設店は計425店舗と、前期からさらに上昇している（併設率64.4%）。当面の目標としては、介護事業者との連携を一層推進させると共に（10年8月末の連携介護施設数は99施設）、調剤併設500店舗、併設率70%、そして全売上高に占める調剤の売上比率を10%まで高めていくことを挙げている。

また、昨年10月の経営統合で、新たなスタートを切ったココカラファインは、現時点の調剤事業は約290億円と、ドラッグストア業界でトップといえる実績だ。今後はさらに調剤取扱店舗を拡大し、15年度には調剤売上高を750億円、全売上高に占める比率を15%まで引き上げたい考えだ。

これまでもグループ企業では、管理栄養士を活用した店頭での栄養指導サービス、血圧や体脂肪などを測定できる機器を設置し、測定結果をもとに健康に関するアドバイスにも力を入れている。今後も、接客力を生かした店頭指導を充実させ、他店との違いを打ち出していき考えだ。

医療分野も視野に「調剤併設」進む

ここに来て、大手ドラッグストアで目立つのが、「医療+物販」の融合による新たな事業モデルへの取り組みだ。幅広く地域医療に参画するためには、調剤への取り組みが不可欠だとして、調剤併設店舗が急速に増えている。「ドラッグストアにおける調剤の優位性は面分業であり、面分業を通して様々なメリットを生かすことができる」とする企業トップは多い。

もちろんドラッグストア本来の専門性を発揮するのは、調剤だけではない。生活習慣病対策をはじめ、妊娠・出産、育児、介護、在宅医療、退院後ケア、在宅の輸液調製・供給など幅広い。これまでの病院と門前薬局との点分業では対応できない部分の医療、高齢者関連施設との連携を通じ、地域のチーム医療に積極的に参加していこうという動きが注目される。

その1つ、“地域医療対応型ドラッグスト

ア”の展開を強力に推進するのが、スギホールディングス。創業以来、調剤併設型ドラッグストア「スギ薬局」を運営するファーマシー事業のほか、在宅医療や訪問看護ステーション、新薬開発支援といった医療分野での専門性を追求するメディカル事業にも注力する。

現在、スギグループは1都2府13県に750店舗を展開しており、その中核となるのがスギ薬局。その成長を支えるのが処方箋調剤だ。この10年間（01年2月期～10年2月期）でスギ薬局の調剤部門は、受付処方箋枚数が年間31万枚から234万枚と約7倍に、調剤報酬としては約18億円から約214億円と約12倍に伸長している。

特に在宅医療への取り組みはドラッグ業界でも屈指。クリーンルーム、クリーンベンチ、安全キャビネットを配備し、TPN（中心静脈栄養法）や経腸栄養法、麻薬や抗癌剤にも対応する。患者の自宅薬剤の供給・説明を

地域医療を支える身近な薬剤師がここにいます



ドクターや看護師などと連携をとる「チーム医療」の現場に立ち、高いレベルのスキルや技術、コミュニケーションを磨けます。

ドクターと協力して、地域医療の一翼を担います。患者さま一人ひとりのお悩みを理解できる地域のカウンセラーを目指します。

セルフメディケーションが浸透する中、健康相談会を実施し、予防や健康について気軽に相談できる、お店づくりを実現します。

給与 大学卒/月給30万5,000円(一律手当、薬剤師手当含む)
院卒/月給31万5,000円(一律手当、薬剤師手当含む)
※2010年度実績 ※時間外手当は除く
昇給・賞与 昇給年1回 賞与年2回

勤務地 神奈川県、東京都、静岡県、埼玉県、千葉県、群馬県、茨城県
休日 年間シフトによる週休2日制、有給休暇、半日休暇、特別休暇
福利厚生 社会保険、交通費全額支給、退職金制度、育児・介護休暇制度等
教育・研修 新人勉強会、薬剤師勉強会、調剤研修、接遇研修等

神奈川を中心とするドラッグストア・調剤薬局チェーン <http://www.create-sd.co.jp> saiyoh@create-sd.co.jp
株式会社 **クリエイト エス・デー** ☎0120-412-295 TEL 045-974-7081 (平日9:00-18:00)
〒225-0014 神奈川県横浜市青葉区荏田西1-9-15

携帯電話から
簡単エントリー!!
(リクナビ2012へ)